

白鷹の森林林業の再生へ！ 取り組みが始まっています



木質バイオマス活用事業「しらたか木の駅プロジェクト」

町では、昨年7月の豪雨災害を受け、町内の森林環境保全を目的に森林・林業再生協議会を組織し活動しています。「森林整備・境界明確化部会」と「木材・バイオマス利用部会」の2部会で組織している協議会の活動のほか、まちづくり助成事業を活用した町民のみなさんが主体となった取り組みも行われています。

◆森林整備・境界明確化部会



所有者立ち会いでの現地調査

白鷹町の山林は、もともと所有者が多く入り組んだ人工林中心であること、山林を管理する方が少なくなったことや境界の目安となる資料が明治時代に作成された図面のみで現状と大きく異なるなど、境界が不明確な箇所が多く森林整備が進まない状況でした。今年度より、所有者と所有者界を明確にするため林野庁の補助事業によりモデル地区を選定し境界明確化事業を実施しています。境界が確定した箇所は間伐等を行い、環境保全に取り組んでいきます。

◆木材・バイオマス利用部会



木材利用ワークショップ

森林・林業の活性化を目指し「木材利用の推進」「木質バイオマスの利用促進」について、課題の整理と解決、産業の活性化などに向けて検討を行っています。

林野庁の補助事業により木材利用拡大に向けてのワークショップや勉強会を実施しているほか、今後の林業活性化のため、外部講師の方に指導をいただきながら、町内の森林・林業関係者の方々と町産材の利用拡大について検討しています。

◆町民主体の活動

【^{おみや}鋸谷式間伐法講習会】

10月18日、町内の山林において、元林業改良指導員の鋸谷茂さんによる「鋸谷式間伐法講習会」（菅原庄市実行委員長）を実施しました。

講習会には、町の森林を再生させようと、若い方や女性も含め約70人が参加しました。今後はより多くの方に関心を持って森林整備に関わってもらい、災害を防ぐ健全な森林への再生を図っていきます。



鋸谷式間伐法講習会

「しらたか木の駅プロジェクト」

11月8日には「しらたか木の駅プロジェクト」（小林真実行委員長）を実施しました。「木の駅プロジェクト」とは、伐採した木材を「木の駅（集積所）」へ出荷し、出荷者には1㎡あたり4000円を、地域限定通貨「モリ券」として還元する取り組みです。モリ券は、町内のプロジェクト参加登録店13店舗で商品と交換することができ、森林整備と地域活性化のきっかけとすることを目的としています。



木の駅にはこの日だけで40㎡の木材が集まった

■問い合わせ
産業振興課農村整備係
☎8516125
総務課企画室まちづくり推進係 ☎8710830